

令和 3 年度

# 事業報告

社会福祉法人 田村福社会

## 目 次

1	当該年度の事業及び決算の概要	1～6
2	役職員等の状況	7
3	法人活動状況	8～15
4	各事業報告	16～23
5	身体拘束の実施状況と廃止への取り組み	24
6	事故報告と防止対策	24
7	苦情受付事例と解決への取り組み	25

### 基本理念

- 良質の福祉サービスを提供します
- 利用される方々の尊厳を守ります
- 地域福祉の発展に貢献します

## 1 当該年度の事業及び決算の概要

### —新型コロナウイルス感染症の事業全体への影響—

—昨年度から長期に及ぶ新型コロナウイルス感染症対策により、法人各事業については、最大限の警戒を図り実施に努めました。いつ施設で感染が起こっても不思議ではない深刻な状況のなか、感染の第5波・6波では対策を徹底するなかで、人的なやり繰りに負担の重い一年となりました。

ご利用者の家族等への面会についても、特段の場合を除きリモート面会が中心となり、自由な日常の触れ合いが叶わない大変辛い時間が継続する形となりました。

### —フル稼働体制の取り組み—

地域の重要な福祉インフラである認識のもと、退所から入所までの期間短縮、短期入所の空き情報の提供、緊急受入れ等、地域でサービスを必要とする方の適切な受入に努めました。

また、田村市第8期介護保険事業計画に盛り込まれた、ときわ荘ショートステイ（10床）の入所床への転換については、当初の時期からずれ込み11月の転換となりました。

安定的なフル稼働体制を実現するために、法人独自の取り組み継続に加え、国の処遇改善等の更なる支援策を望むところです。

### —人材確保・定着及び育成の取り組み—

人材確保は、事業のフル稼働・安定化に向けて最重要課題として捉えるなか、これまでの地元3高校学校長推薦による新卒高校生の採用、新卒・一般向けの定期採用試験、臨時・パート

職員で介護福祉士試験合格者への正職登用試験の継続に加え、随時募集を強調した採用情報の発信を実施し人材確保に努めたものの、新卒・中途採用ともに依然厳しい状況が続いています。この状況を打開するため、年度後半からは緊急人材確保対策推進事業（報償制度の改定）、外国人介護人材の受入（令和4年度10月予定）等に着手したところです。

また、今後を見据えた育成の動きとして、外部講師による統括主任等の候補となる次世代育成研修、その階層に続く中堅職員研修を継続したところです。

さらに、法人プロジェクトによる事業推進は、チャレンジする組織風土を醸成するための取り組みとして“気づき”が芽生えはじめ、次のステップの“考え”“行動（チャレンジ）”する動きになろうとしております。法人プロジェクトを部門会議等を通じて、PR動画作成、HPリニューアル、人材紹介、交流会事業、組織の課題に対し提案制度へのチャレンジ等、組織の動きを共有するため、チームワークを育むコミュニケーションを大切に捉え、事業推進に努めました。

### —業務負担軽減への対応—

総務領域では、令和元年度より社会保険・雇用保険の各種申請は電子申請により手続き時間短縮を継続。介護領域では、県の介護ロボット補助事業により離床を知らせる機器の活用、持ち上げない介護の取り組みを継続するとともに、今後のICT機器活用に向けたWi-Fi環境整備の調査を開始しました。

#### ―各事業の運営状況―

いずれの事業も長期に及び新型コロナの影響、余裕のない人員体制等により軒並み厳しい稼働状況となりました。

特別養護老人ホームは、重度要介護者、経管栄養等医療的介護の必要な入所者、行政からの措置入所の要請や、ご家族の協力が難しい方等の受入れ対応を継続しております。

稼働率は 95.6%（前期 97.1%）と減しております。このところ短縮傾向にあった退所から入所まで期間も平均 30.5 日（前期 22.1 日）となっております。

また、都路まどか荘ではときわ荘に続きスムーズな入所調整を図る観点から、単独での入退所判定委員会の開催となりました。他の3施設についても、令和5年度からの単独開催に向け準備を進めていきます。

短期入所については、稼働率 73.1%（前期 75.5%）と減しており、感染対策による職員の自宅待機等の影響がありました。また、ホームページへの空き情報提供の運用上の課題については、次の更新ホームページへ引き継ぐ形となりました。

通所介護は、稼働率 72.4%（前期 74.9%）の減となっております。都路では、地域唯一のデイサービスとしての地域の要望を踏まえながらも、職員配置の関係で年度末に週6日の営業を5日に変更しました。船引では、他の事業所と競合するなか利用者の利便性を考慮した受入れを行い、コロナ禍にあって通所介護を生きがいと捉えるご利用者の声を、外出の機会を確保することの大切さとして重く受け止めたところです。

ケアハウスは、稼働率 85.6%（前期 93.1%）と減しております。状態像の変化により日常的に介護が必要になった方の

退所者が続いたものの、近隣の関係機関へのPRの効果もあり、年度末には満床に近い状態に回復してきております。

居宅介護支援事業所では、職員の異動等により給付管理件数が目標値には達しなかったものの、徐々に回復がみられ引き続き地域の困難事例を積極的に引き受け、信頼される事業所運営に努めました。

#### ―地域との連携―

1市2町・各社協・学校等の事業への協力・連携を継続し、地域貢献活動については、新型コロナの影響もあり健康料理教室等の一部の実施にとどまりました。

医療連携については、特に都路まどか荘の嘱託医となる都路診療所医師の体制が厳しいなか、たむら市民病院をはじめ近隣の医療機関との連携に奔走したところです。

7法人連絡協議会については、新型コロナの影響もあり年1度の開催となり、今後に向けた情報交換を行ったところです。

#### ―決算の概要について―

令和3年度決算は25,877千円の資金増（前期約73,206千円資金増）でした。3期続けての資金増となり、限られた収入に対し収支改善への取り組みが表れています。

事業活動収入は、1,808,898千円（前期比15,952千円減）。

事業活動支出のうち人件費1,106,310千円（前期比31,530千円減）。これは期中の退所者に対して採用計画数を確保出来なかったこと、定年退職による年齢層の入れ替わ

り等によるものです。

事業費は293,244千円（前期比約3,463千円増）。燃料価格上昇によるものです。

事務費は322,599千円（前期比49,816千円増）。修繕費増によるものです。

事業活動支出は1,725,747千円となり、事業活動資金収支差額83,151千円（前期比37,174千円減）前期は新型コロナ補助金が収入の押し上げ効果がありました。

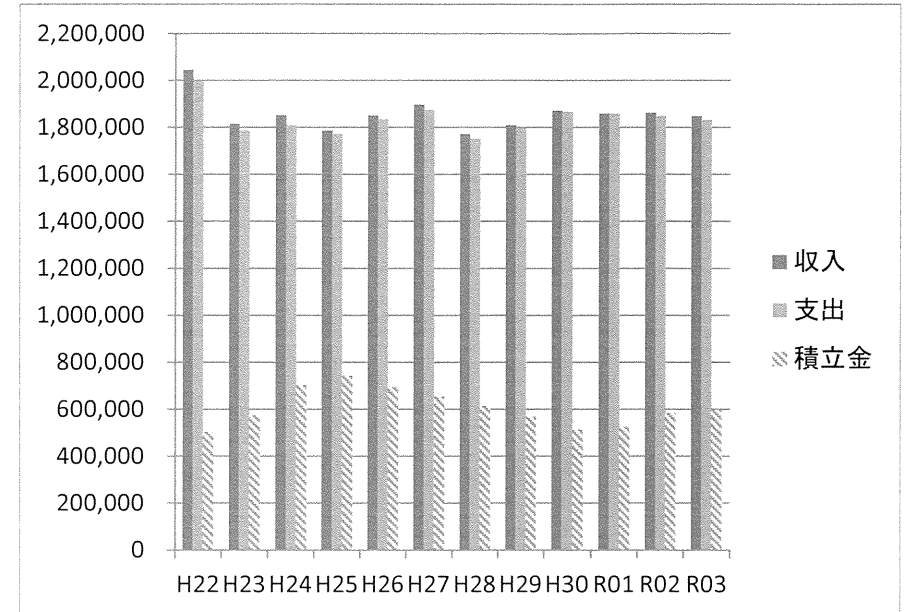
施設整備収支の施設整備等補助金収入が8,612千円（前期8,076千円減）。固定資産支出51,205千円（前期5,666千円増）となりました。

修繕費・固定資産取得支出の総額は111,384千円（前期41,407千円増）であり、特に浄化槽撤去工事・下水道接続工事、屋根防水工事業により例年より膨らんできております。

期末時点の資金残高は当期末支払資金が600,286千円、積立資産は596,832千円、合計1,197,118千円の資金残高となります。

当期末における全ての資産、負債及び純資産の状態を明らかにする貸借対照表では、資産は約4,084百万円であり前期比約25百万円減。負債は約431百万円であり前期比約18百万円増、差引純資産は約3,654百万円であり、前期比約44百万円減でした。

引き続き業績向上を図るため、直面する課題の人材確保、人事考課・給与制度の再構築、業務改善、その他事業を推進し、常に地域で選ばれる施設づくりを目指し、収入の安定確保を図り、継続経営可能な体制づくりに努めます。



\*決算推移グラフ（単位：千円）

—結びに—

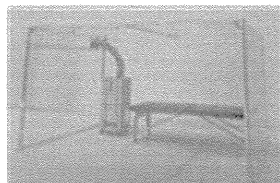
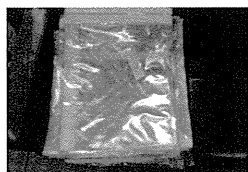
世の中の情勢が大きく変化するなか、今後、時流に乗った社会福祉法人として役割を果たし、持続的発展を遂げるためにも、これまでの人を大切にする組織としての文化をより進化・発展させ、これまで培ったノウハウと、革新性・創造性を捉えた持続可能な経営基盤を整え、地域の皆様に良質な福祉サービスが提供できる組織づくりに引き続き役職員一丸となって努力して参りますので、今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人田村福社会  
理事長 渡辺 剛志

\*主要工事等の概要（200万円以上）

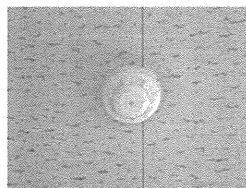
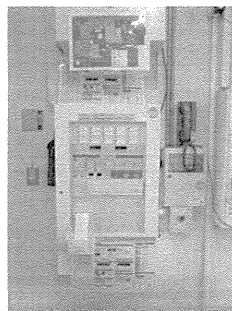
<あぶくま荘簡易陰圧装置購入事業>

- 1) 事業概要 施設内感染拡大のリスクを低減するため、ウイルスが外部に漏れないように気圧を低くする組立式陰圧装置の設置
- 2) 契約金額 2,043,800円（税込）
- 3) 納入日 令和4年1月28日
- 4) 契約業者 郡山市喜久田町字松ヶ作 15-1  
東北アルフレッサ株式会社  
郡山第二支店
- 5) 財源内訳 自己資金 800円  
補助金 2,043,000円  
補助事業名 福島県地域医療介護総合確保  
基金事業補助金  
簡易陰圧装置設置経費支援事業



<こまち荘自動火災報知設備更新事業>

- 1) 事業概要 老朽化に伴う防火設備の更新（消防法準拠）
- 2) 契約金額 3,300,000円（税込）
- 3) 完成 令和3年12月14日
- 4) 契約業者 郡山市安積町長久保 4-1-10  
株式会社アサヒビルサービス
- 5) 財源内訳 自己資金



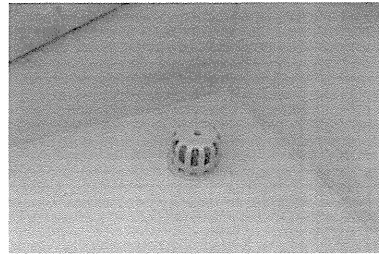
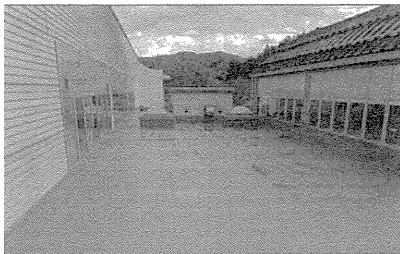
<都路まどか荘家族面会室整備工事事業>

- 1) 事業概要 感染防止を図り、家族が季節を問わず安心して面会できる空間の整備
- 2) 契約金額 3,500,000円（税込）
- 3) 完成 令和4年2月18日
- 4) 契約業者 田村市船引町船引字館柄前 16-1  
有限会社鈴木建築店
- 5) 財源内訳 補助金 3,500,000円  
補助事業名 田村市老人福祉施設等整備事業  
(令和3年度福島県地域医療介護総合確保基金事業介護施設等の整備に関する事業)  
新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業



<都路まどか荘防水改修工事事業>

- 1) 事業概要 施設屋上の陸屋根部分の経年劣化に伴うシート防水等の改修
- 2) 契約金額 17,380,000円(税込)
- 3) 完 成 令和3年10月29日
- 4) 契約業者 郡山市喜久田町卸 3-38-1  
株式会社郡山塗装
- 5) 財源内訳 自己資金



<都路まどか荘デイサービスセンター送迎車両購入事業>

- 1) 事業概要 15年経過、走行距離20万 km 以上のため更新
- 2) 契約金額 2,570,000円(税込)
- 3) 納 入 日 令和3年11月30日
- 4) 契約業者 田村市都路町古道字戸田平 75  
有限会社ウインズ
- 5) 財源内訳 自己資金



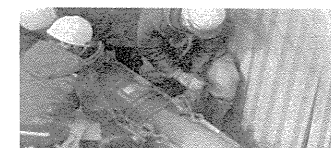
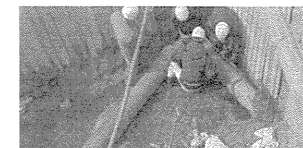
<船引こぶし荘屋根塗装改修工事事業>

- 1) 事業概要 施設屋上の勾配屋根部分の経年劣化に伴う塗装等の改修(年次計画により40%改修済)
- 2) 契約金額 2,750,000円(税込)
- 3) 完 成 令和3年6月2日
- 4) 契約業者 郡山市喜久田町卸 3-38-1  
株式会社郡山塗装
- 5) 財源内訳 自己資金



<船引こぶし荘等浄化槽撤去工事事業及び下水道接続工事事業>

- 1) 事業概要 福島県が施行する道路橋りょう整備(再復)工事に伴う工事
- 2) 契約金額 36,300,000円(税込)
- 3) 完 成 令和4年4月28日(※年度またぎ)
- 4) 契約業者 田村市船引町北鹿又字乱遠前135  
株式会社伸和商会
- 5) 財源内訳 自己資金 5,742,000円  
福島県より物件移転に関する補償金  
30,558,000円



【固定資産取得費、修繕費の概要】

<建物付属設備>

- 設備～自動火災報知
- 環境～家族面会室、下水道接続
- 外部～屋根防水

<器具及び備品>

- 設備～エアコン
- 介護看護～電動低床ベッド（付属品含む）、昇降テーブル、流し台、リクライニング車椅子、モジュール式車椅子
- 厨房～食器消毒保管機、ラピットチラー、配膳車、ガステーブル、製氷機

- 衛生環境～陰圧装置

- 環境～パソコン

<車輜運搬具>

- 車輜

\*固定資産取得費計（A）＝51,205千円

<修繕工事等>

- 内装～トイレ、クロス貼替、浴室内、居室内、家具
- 電気～照明器具、コンセント
- 設備～浄化槽、自動水栓、洗濯機、ナースコール、空調設備、電気温水器、汚物除去機、乾燥機、電話回線、混合栓、流し台、自動ドア、パソコン、事務機器、排水管、
- 外部設備～浄化槽、自家発電設備、水道、給湯ボイラー、屋根塗装、給水管、雨水管、出入管理システム、地下タンク、飾り柱、駐車場、アンテナ
- 介護看護～車椅子、徘徊コール、特浴、中間浴、体温計、ベッド、

血圧計、加湿器、トイレ便座、マットレス、テーブル、喉頭鏡、脱臭装置、ティーサーバー、モニター

- 消防～消防設備、排煙窓、誘導灯、スプリンクラー、感知器、消火器
- 厨房～冷凍冷蔵庫、配膳車、食器洗浄機、大型ミキサー、スチームコンベクション、食器消毒保管庫、炊飯器、製氷機、換気扇、警報機

\*修繕費用計（B）＝60,179千円

（A）＋（B）＝111,384千円



2 役職員等の状況（令和4年3月31日現在）

(1) 役員

区分	人数	年度内の異動状況
理事	6名	
監事	2名	
計	8名	

(2) 評議員

区分	人数	年度内の異動状況
評議員	7名	
計	7名	

(3) 管理職

区分	人数	年度内の異動状況
局長、施設長	6名	
副施設長・事務長	0名	(配置なし)
計	6名	

\*局長＝本部事務局長

(4) 総務系職員

区分	人数	年度内の異動状況
事務職員	11名	退職1名、採用1名
管理栄養士	7名	退職1名、採用1名
臨時雇用	6名	
計	24名	

(5) 事業系職員

( ) は雇用形態の変更に伴う退職採用数

区分	人数	年度内の異動状況
相談支援	18名	
介護職員	125名	退職10名、採用5名(4名)
臨時介護員	27名	退職7名(4名)、採用5名
看護等職員	22名	退職4名、採用3名(1名)
臨時看護師	2名	退職1名(1名)、採用2名
計	194名	

\*相談支援＝生活相談員、介護支援専門員

\*看護等職員＝看護師、機能訓練指導員

(6) パートタイマー（実数）

区分	人数	年度内の異動状況
総務系	13名	退職5名、採用6名
事業系	46名	退職9名、採用26名
計	59名	

合計職員数 (3)～(6)

区分	人数	比率
正職員	189名	66.8%
臨時雇用	35名	12.4%
パート雇用	59名	20.8%
計	283名	

\*障害者雇用9名（法定雇用率2.3%、法人実績率3.1%）

\*上記「人数」は3/31付け退職者を在籍とする期末時点の人数、  
「年度内の異動状況」は3/31付け退職を含む人数としている。

### 3 法人活動状況

月 日	内 容
4月 1日	辞令交付式 ○新採用職員3名 (看護師1名、介護員1名、事務員1名)
4月 5日	公認会計士事務所決算打合せ
4月15日	施設長会議 ○現況報告、極度額、入所申込受付、計画書様式、 認知症介護基礎研修、新採用職員研修、法人次世代 育成研修、ワクチン接種 法人運営会議 ○法人プロジェクト2021、内部からの次期役員
4月16日	内部相互監査チームによる監査(あぶくま荘)
4月19日	小野町長へ挨拶 公立小野総合病院長へ挨拶
4月20日	監事会 ○決算監査方針
4月22日	第1回入退所判定委員会 ○入所順位の判定
4月30日	田村市長へ挨拶
5月 2日	公認会計士事務所往査1日目
5月 3日	公認会計士事務所往査2日目
5月 4日	公認会計士事務所往査3日目
5月 6日	施設長会議

月 日	内 容
	○現況報告、ワクチン接種進捗、極度額設定、新採用職員研修 法人運営会議 ○法人プロジェクト工程表、一般事業主行動計画確認、各種助成募集、 職員採用試験(パート看護職員の正職登用) 6月1日付採用看護師1名内定
5月10日	都路まどか荘第1回入退所判定委員会
5月11日	決算監査(法人全体)
5月12日	決算監査(各施設長との面談及び全体講評)
5月13日	法人運営会議 ○理事会議案確認
5月19日	理事会 協議事項) ○令和2年度事業報告及び収支決算報告 ○理事・監事の選任候補者の推薦 ○評議員の選任候補者の推薦 ○定時評議員会の招集事項 ○ときわ荘ショートステイ床の入所床への一部転換 報告事項) ○監事監査報告 ○理事長専決(予備費充当) ○理事長及び常務理事の職務執行状況報告
5月27日	

月 日	内 容
5月31日	退職辞令交付 介護員1名
6月 1日	職員採用辞令交付 看護師1名
6月 3日	評議員選任・解任委員会
6月 9日	施設長会議 ○現況報告、ワクチン接種進捗、外部との接触を持つ行事等の開催、領収書発行取り扱い、取引金融機関の一本化 法人運営会議 ○法人プロジェクト進行状況、評議員会・理事会議案確認、人事異動
6月10日	第2回入退所判定委員会
6月11日	ときわ荘第1回入退所判定委員会 労働環境調査実施 経営収支改善チーム会議
6月17日	評議員会 協議事項) ○令和2年度収支決算報告 ○理事・監事の選任 報告事項) ○令和2年度事業報告 ○監事監査報告 ○令和3年度事業計画及び収支予算 ○ときわ荘ショートステイ床の入所床への一部転換

月 日	内 容
	○理事長及び常務理事の職務執行状況報告 理事会 協議事項) ○理事長の選任 ○常務理事（業務執行理事）の選任 ○代表監事の選任
6月21日	職員採用試験（臨時職員の正職登用） ○7月1日付採用介護員4名内定
6月22日	内部相互監査チームによる監査（こまち荘）
6月23日	評議員へ法人事業説明会 ○評議員2名
6月30日	船引こぶし荘地域貢献活動①（福祉・介護の職場説明会：船引南中学校） 部門会議（主任介護員・主任看護師等） 高校進路担当教諭との懇談会（田村市） （田村、船引、小野各高校ほか） 退職辞令交付 看護師1名
7月 1日	職員採用辞令交付 介護員4名（臨時職員から登用） 新採用職員法人研修会 午前・午後2班分け実施
7月 8日	市町福祉担当課長事業等報告及び意見交換会 ○決算及び事業報告 ○事業計画及び予算 ○意見交換（特養入所申込客観性の担保、入所待機

月 日	
	者名簿更新) 施設長会議 ○現況報告、ときわ荘ベット転換の進捗、採用試験 日程、安全対策担当者研修会、人材育成研修、夏祭 り、敬老会の日程、県社協介護職機能分化モデル事 業、JKA 補助事業応募 法人運営会議 ○法人プロジェクト進行状況、内部相互監査チーム 報告、ときわ荘空調設備更新に向けた方向性
7月15日	総務統括主任会議 退職辞令交付 介護員1名
7月20日	第1回苦情解決第三者委員会(会場本部へ変更)
7月21日	事業統括主任会議
7月27日	求人活動採用実績校訪問
7月28日	ときわ荘ベット転換申請書類提出
7月29日	船引こぶし荘地域貢献活動②(健康料理教室:石崎団 地) ときわ荘第2回入退所判定委員会
8月 3日	都路まどか荘第2回入退所判定委員会
8月 4日	部門会議(管理栄養士、ショートステイ担当者)
8月 5日	施設長会議 ○現況報告、認知症カフェ再開時期、人員確保、法

月 日	内 容
	人人材育成研修、都路まどか荘防水工事事業入札、 船引こぶし荘浄化槽撤去工事等事業の県との協議状 況、採用試験、JKA 補助金事業申請、敬老会 法人運営会議 ○法人プロジェクト進行状況、労働環境調査結果 職場体験事業(あぶくま荘) 1名
8月 9日	求職者(看護)面接
8月19日	第3回入退所判定委員会
8月20日	経営収支改善チーム会議
8月24日	内部相互監査チームによる監査(都路まどか荘)
8月25日	7法人連絡協議会(延期)
8月26日	部門会議(主任介護員) 都路まどか荘防水工事事業入札
8月27日	郡山健康科学専門学校就職説明会(中止) 求職者(介護)面接
8月31日	退職辞令交付 介護員1名、看護師1名
9月 1日	法人運営会議 ○理事会議案確認 施設長会議 ○現況報告、採用試験、船引こぶし荘浄化槽撤去工 事等事業の入札、敬老会、メンタルヘルス事業、第 2回定期採用試験

月 日	内 容
9月 9日	法人運営会議 ○法人プロジェクト進行状況、面会方法、研修 理事会 協議事項) ○補正予算、都路まどか荘防水工事業契約承認 報告事項) ○理事長専決契約、船引こぶし荘浄化槽撤去工事 等事業について
9月10日	職員登用試験 ○一般職Ⅰ⇒一般職Ⅱ介護員2名内定
9月14日	第1回中堅職員研修
9月16日	職員採用試験 ○4月1日付け採用介護員(学校長推薦) 小野高校1名内定
9月22日	第1回次世代育成研修
9月25日	第1回職員定期採用試験 ○4月1日付け採用介護員2名内定
9月28日	事業統括主任会議
9月29日	ときわ荘第3回入退所判定委員会 船引こぶし荘浄化槽撤去工事業及び下水道接続工 事事業入札
9月30日	監事会 ○中間監査方針

月 日	内 容
	退職辞令交付 事務員1名、介護員1名
10月 1日	第2回中堅職員研修
10月 7日	施設長会議 ○現況報告、家族の面会、助成金案内、ICT環境 整備、第2回職員採用試験、採用活動状況、ときわ 荘ベット転換、監事会、インフルエンザワクチン接 種、法人メンタルヘルス事業、ホームページ更新 法人運営会議 ○法人プロジェクト進行状況、臨時・パート職員賃 上げ、地域貢献事業、事業継続計画、労働環境調査 ○内部相互監査チームの報告
10月 9日	退職辞令交付 介護員1名
10月12日	第2回次世代育成研修
10月13日	第2回苦情解決第三者委員会(会場:都路まどか荘)
10月15日	経営収支改善チーム会議
10月18日	ときわ荘ベット転換に伴う施設整備補助金財産処分 承認
	メンタルヘルスケア第1回職場訪問(あぶくま荘)
10月21日	第4回入退所判定委員会
10月22日	部門会議(主任介護員)
	メンタルヘルスケア第2回職場訪問(都路まどか荘)
10月25日	メンタルヘルスケア第3回職場訪問(船引こぶし荘)

月 日	内 容
10月26日	内部相互監査チームによる監査（船引こぶし荘）
10月28日	中間監査（本部・あぶくま荘・こまち荘・ときわ荘）
10月29日	中間監査（都路まどか荘・船引こぶし荘） 理事長への全体講評
11月 2日	法人運営会議 ○理事会議案確認 施設長・運営会議 ○現況報告、外国人介護人材、上期監査結果報告、 ときわ荘ベット転換、ホームページ進捗、看護師チ ーム等について 法人運営会議 ○法人プロジェクト進行状況、その他
11月 4日	都路まどか荘第3回入退所判定委員会
11月 5日	公認会計士事務所（船引こぶし荘現地確認）
11月 8日	メンタルヘルスケア第4回職場訪問（こまち荘）
11月11日	理事会 協議事項） ○報告事項 理事長及び常務理事の職務執行状況報 告、監事監査報告、その他（評議員上期報告会の内 容検討）
11月12日	法人運営会議 ○総務統括主任会議報告、経営収支改善チーム会議

月 日	内 容
	の報告
11月15日	メンタルヘルスケア第5回職場訪問（ときわ荘）
11月16日	メンタルヘルスケア第6回職場訪問（都路まどか荘） 事業統括主任会議
11月19日	評議員への上期報告会 令和3年度上期報告、中間監事監査結果報告 法人運営会議 ○ホームページ業者提案1社、職員提案制度
11月22日	第3回中堅職員研修
11月24日	令和3年度「介護就職デイ」福祉関係合同面接会
11月25日	職員採用試験 ○12月1日付け採用看護師1名内定
11月26日	メンタルヘルスケア第7回職場訪問（船引こぶし荘）
11月29日	第3回次世代育成研修
11月30日	経営収支改善チーム会議
12月 1日	職員採用辞令交付 看護師1名 メンタルヘルスケア第8回職場訪問（あぶくま荘）
12月 2日	7法人連絡協議会
12月 4日	第2回職員定期採用試験 ○1月1日付け採用管理栄養士1名内定
12月 6日	メンタルヘルスケア第9回職場訪問（都路まどか荘）
12月 8日	法人運営会議

月 日	内 容
	○理事会議案確認 施設長会議
	○現況報告、12月賞与、採用活動状況、看護師向け交流会、職員提案制度、面会等について 法人運営会議
12月9日	○法人プロジェクト進行状況、ホームページ制作業者提案等について 第4回中堅職員研修 船引こぶし荘地域貢献活動③（健康料理教室：石崎団地）
12月13日	メンタルヘルスケア第10回職場訪問（船引こぶし荘）
12月14日	第4回次世代育成研修
12月16日	理事会 協議事項） ○補正予算 ○給与規程の一部改正 ○契約の締結 報告事項） ○理事長専決契約 その他） ○ホームページリニューアル、外国人介護人材受入等 法人運営会議

月 日	内 容
	○法人プロジェクトホームページ提案2社
12月21日	内部相互監査チームによる監査（ときわ荘）
12月23日	第5回入退所判定委員会
12月31日	退職辞令交付 介護員2名、看護師1名
1月1日	職員採用辞令交付 管理栄養士1名
1月6日	施設長会議 ○現況報告、採用活動状況、提案制度、社労士研修、新型コロナワクチン3回目接種等について 法人運営会議
	○法人プロジェクト進行状況、ホームページ制作業者選定等について
1月13日	看護師向け交流会新聞折込チラシ 第5回中堅職員研修
1月14日	福島労働局調査
1月17日	メンタルヘルスケア第11回職場訪問（こまち荘）
1月18日	第5回次世代育成研修 事業統括主任会議
1月19日	部門会議（主任看護師等）
1月21日	部門会議（主任介護員） メンタルヘルスケア第12回職場訪問（ときわ荘）
1月23日	第1回看護師向け交流会・職場説明会
1月25日	職員採用試験

月 日	内 容
	○4月1日付採用介護支援専門員1名内定 経営収支改善チーム会議
1月28日	総務統括主任会議
1月31日	予算査定（あぶくま荘・まどか荘・ときわ荘） メンタルヘルスケア第13回職場訪問（こぶし荘）
2月 1日	予算査定（本部・こまち荘・こぶし荘）
2月 2日	船引高校職場説明会
2月 3日	予算査定結果の理事長報告
2月 5日	職員採用試験
	○4月1日付採用介護員1名内定 県社協合同就職説明会（集合説明会中止）
2月 8日	メンタルヘルスケア第14回職場訪問（あぶくま荘）
2月 9日	ときわ荘第4回入退所判定委員会 第6回中堅職員研修（リモート開催）
2月10日	施設長会議 ○現況報告、当初予算査定まとめ、処遇改善支援補助金、人材育成研修、女活法行動計画、法人の会議開催等について 法人運営会議
2月14日	○法人プロジェクト進行状況等 外国人介護人材1次面接12名から8名を選考（株式会社 ONODERA USER RUN：ミャンマー校） 都路まどか荘第4回入退所判定委員会

月 日	内 容
2月15日	メンタルヘルスケア第15回職場訪問（こぶし荘）
2月17日	第6回次世代育成研修（リモート開催）
2月18日	社会保険労務士研修（中止）
2月21日	メンタルヘルスケア第16回職場訪問（ときわ荘） 内部相互監査チーム会議
2月22日	外国人介護人材2次面接8名から6名を選考（株式会社 ONODERA USER RUN：ミャンマー校）
2月23日	本部会議
2月24日	第6回入退所判定委員会（書面審査）
2月27日	第2回看護師向け交流会・職場説明会
3月 2日	法人運営会議 ○理事会議案書確認 施設長会議 ○現況報告、就業規則・給与規程の一部改正説明会 新採用職員研修会、ときわ荘空調設備更新事業補助金申請等について 法人運営会議
3月 4日	○法人プロジェクト進行状況等 メンタルヘルスケア第17回職場訪問（こまち荘）
3月 8日	就業規則・給与規程の一部改正説明会（リモート） メンタルヘルスケア第18回職場訪問（まどか荘）
3月10日	理事会（決議の省略） 協議事項）



月 日	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補正予算</li> <li>○令和4年度事業計画及び収支予算</li> <li>○就業規則の一部改正</li> <li>○ハラスメント防止規程の制定</li> <li>○給与規程の一部改正</li> <li>○役員等賠償責任保険契約</li> <li>○船引こぶし荘等浄化槽撤去工事事業及び下水道接続工事事業の工期延長に伴う変更契約</li> <li>○施設長の選任について 報告事項)</li> <li>○理事長専決による契約</li> <li>○職員採用状況について</li> <li>○都路まどか荘デイサービスセンター営業日変更</li> </ul>
3月15日	新採用職員説明会
	メンタルヘルスケア第19回職場訪問（ときわ荘）
3月18日	メンタルヘルスケア第20回職場訪問（こぶし荘）
3月22日	内部相互監査チーム会議
3月27日	第3回看護師向け交流会・職場説明会
3月31日	退職辞令交付
	生活相談員兼介護支援専門員3名、看護師1名、管理栄養士2名、介護員6名（計12名うち定年退職9名）

*原子力災害による避難者受入状況	
こまち荘	1名（前年比 0名）
計	1名（前年比 0名）

4-1 各事業報告（法人全体）

	地域連携	ひとづくり	施設づくり	中長期計画	社会福祉法人制度改革 介護報酬改正
重点目標 （法人全体）	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域医療・福祉の連携強化</li> <li>②地域における公益的な取組（地域貢献活動）の実施</li> <li>③法人連絡協議会をはじめ広域的な社会福祉法人の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①求人対応のWEB活用検討</li> <li>②令和3年度末大量定年対策</li> <li>③次の管理者候補及び次世代コア職員育成</li> <li>④職場環境改善</li> <li>⑤職能資格基準の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①感染予防補助金の活用</li> <li>②看護と介護連携による医療的ケアの研修修了者の増</li> <li>③安全衛生管理体制確立</li> <li>④介護ロボット機器・ICT活用による業務改善の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大規模修繕、大型備品更新、人件費財源等の中長期計画策定</li> <li>②稼働率向上・空床減への継続的な取り組み</li> <li>③職員の適正配置と人件費配分の検討</li> <li>④原子力損害賠償定時最終請求のほか賠償請求の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①諸規程、内部統制等見直し</li> <li>②会計監査人監査準備</li> <li>③非正規職員と正規職員間の賃金、福利厚生、教育訓練及び原資配分の引き続きの検討</li> <li>④利用者満足となる加算対応による増収</li> </ul>
実施状況 （法人全体）	<ul style="list-style-type: none"> <li>①現嘱託医師に契約継続いただき、医療連携を継続した。</li> <li>②各施設とも新型コロナの影響で対外的な事業はわずかな期間となった。再開時期については、随時関係機関とも協議するなど連携を図った。</li> <li>③7法人連絡協議会活動は1回の開催となったが、今後に向けた情報共有の機会とした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①HP全面更新に着手し、移行作業段階となった。</li> <li>②人材確保を最重要課題として、緊急人材確保対策推進事業をはじめとする対策を継続中。</li> <li>③次世代育成研修、中堅職員研修を継続するとともに、次年度の管理者養成研修等の方針を決定し、外部講師との協議を行った。</li> <li>④労働環境調査を実施し、改善すべき課題について対応。次年度の予算化等の対応を継続中。</li> <li>⑤法人プロジェクトにより取り組み継続。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①補助金を活用した日々の感染対策（面会室整備・簡易陰圧装置を購入）を実施した。</li> <li>②ご利用者の継続支援体制を確保するとともに、適切なサービスに対する加算の算定を継続した。</li> <li>③産業医配置施設では定期衛生委員会実施、その他の施設では公的サービス等を活用した。</li> <li>④離床センサーベットの活用継続、ICT機器を活用した、WEB会議・研修・面会・介護記録入力システムの導入（一部施設）。また令和4年度のWi-Fi環境整備を決定した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①法人プロジェクトとして中長期計画により取り組みを継続。</li> <li>②新型コロナ影響もあり、稼働率は前年を下回った。複層的要素があるため、人材確保による対策を継続する。</li> <li>③法人施設ごとの「定数」の再検討でポイントとなる業務改善を各部門で着手、提案募集についても開始した。</li> <li>④東京電力損害賠償窓口担当者と先ずは最終請求分について、認めないとの判断について、やり取りを継続した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①規程は随時必要な改正実施した。</li> <li>②幹部職員による自主的な取組の1つに内部相互監査を位置付け、令和3年度に定期的に内部監査を実施し、求められる仕事の精度についての共通理解がスタートした。</li> <li>③給与制度、人事考課制度等の再構築の取り組み継続</li> <li>④自立支援・重度化防止の取り組みにつながる加算の検討し、可能部分から着手した。</li> </ul>

4-2 各事業報告（特別養護老人ホーム・老人短期入所事業）

	特別養護老人ホーム あぶくま荘	特別養護老人ホーム こまち荘	特別養護老人ホーム 都路まどか荘	特別養護老人ホーム 船引こびし荘	特別養護老人ホーム ときわ荘
特養ホーム の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①施設経営の安定化と効率アップ化</li> <li>②感染対策と業務改善</li> <li>③ご利用者の生活機能維持・向上</li> <li>④腰痛予防と福祉機器活用</li> <li>⑤地域貢献における施設の資源化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①介護報酬改定加算取得と体制づくり</li> <li>②ご利用者最優先のサービスの提供で選ばれる施設づくり</li> <li>③感染症予防対策の強化徹底</li> <li>④事故防止対策の強化徹底</li> <li>⑤業務効率化による働く環境の整備と人材育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①加算取得に向けた体制づくり</li> <li>②各種研修の充実による職員の資質向上</li> <li>③地域性を考慮した地域交流、地域支援への取り組み</li> <li>④誤薬事故予防への取り組み</li> <li>⑤計画的修繕・更新</li> <li>⑥各種災害・感染発生時の業務継続計画整備と訓練実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①収支を踏まえた施設設備の更新</li> <li>②稼働率UPへの取り組み</li> <li>③4つの化の継続</li> <li>④業務効率への具体的な取り組み</li> <li>⑤地域医療との連携</li> <li>⑥地域貢献（市・関係機関との連携）</li> <li>⑦感染症予防・事故防止対策の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①計画的な営繕管理体制の構築</li> <li>②SS 床の特養床転換へ向けた取り組み</li> <li>③新人を含む職員の人材育成及び支援内容の充実</li> <li>④根拠に基づいた感染予防対策の実施</li> </ul>
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①退所者 13 名、入院者 13 名と最も多く、入所平均稼働率も前年度実績には至らなかった。また入院者の内 5 名は新たな入所者の入院であった。</li> <li>②会議を通して研修や学習会を行い、職員間で情報共有、標準予防策の徹底に努めた。また、業務内容を大幅に見直し、業務の効率化と、サービスの向上に努めた。</li> <li>③レクや、ラジオ体操、食前体操を実施し、身体の機能維持に努めた。</li> <li>④移乗用のスライドボードや、跳ね上げ式車椅子活用し、職員の腰痛予防に繋がった。</li> <li>⑤社協主催の高齢者支援事業へ参加を予定したが、コロナ禍の為実施できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①介護報酬改定に伴い多職種連携を図り、体制を整え取得することができた。</li> <li>②多職種連携により個々の状態に応じサービス提供に努めたが人員不足により行事などは縮小しての実施となった。昨年度に引き続き居室壁紙の張り替えを実施して快適な生活環境を整備した。</li> <li>③毎週感染対策委員会を開催し標準予防策の徹底に努めた。委員で積極的に研修にも参加し情報の共有と知識を高めて感染対策を図った。</li> <li>④事故防止検討委員会による検証会議や研修実施し再発予防に努めた。定期的な学習会も実施した。</li> <li>⑤計画的に電動ベッドや車椅子の更新を行い、業務省力化研修を実施して働く環境の整備に繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①加算取得に向けた検討会を実施した。職員不足により、加算要件の体制が取れず、新規加算取得できなかった。</li> <li>②各種オンライン研修を積極的に活用した。また、認定看護師を招き、専門的な研修を実施し、多くの職員が参加することができた。</li> <li>③認知症カフェを立ち上げた。毎月 1 回の開催としたが、感染症予防のため開催できなかった。</li> <li>④事故防止委員会を中心に事故検討を毎月行い、予防策の周知を行った。誤薬事故件数は前年より少なくなった。</li> <li>⑤老朽化した屋根防水シートの全面改修を行い、雨漏り対策を実施した。</li> <li>⑥各種災害、感染発生時の対応について座学を交えながら訓練を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①建物の老朽化に伴う設備等稼働状況に応じ更新を行った。</li> <li>②関係各所との連携により、空床幅の削減に努めたが、家族の都合等により時間を要すこともあった。</li> <li>③ご利用者の変化に注意し、情報を共有しサービスの質の向上に努めた。</li> <li>④限られた人員の中で適切なケアが行えるよう、一人ひとりが意見を出し合い、協力することで業務改善に努めた。</li> <li>⑤医療機関との連携を密に図り、早期対応に努めた。</li> <li>⑥感染対策のもと社協などと協働で被災者や地域との食を通じた交流活動の機会を持ち、地域貢献を継続した。</li> <li>⑦標準予防策の徹底を周知し実行することで感染症発生を予防できた。前年に引き続き、骨折や誤薬が多く発生し、再発防止策の見直しを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①日頃から設備等管理に努め、修繕計画に基づき実施し、計画外の修繕にも対応できるように取り組んだ。</li> <li>②転換に向けて会議を重ね 11 月より転換開始となった。人員不足等があり当初の予定の受入れができず、4 名次年度に繰り越しになった。</li> <li>③退職や休職などにより、人員不足での運営であったが、主任を中心とし各部署で連携を図った体制で人材育成に取り組み、支援内容の充実に努めたが、誤薬事故が多かった。</li> <li>④通知文書や囑託医との連携を図り、新型コロナウイルス等感染予防のため感染対策の徹底を図り（マスクや検温など）備品の確保、行事や面会制限によるご利用者への影響を最小限になるように声掛けなどを増やした。</li> </ul>

	特別養護老人ホーム あぶくま荘	特別養護老人ホーム こまち荘	特別養護老人ホーム 都路まどか荘	特別養護老人ホーム 船引こぶし荘	特別養護老人ホーム ときわ荘
短期入所の 重点目標	①感染対策の徹底 ②稼働率のアップ ③余暇活動の充実	①サービスの質の向上に向けた個別サービス計画の管理 ②ご家族及び関係事業所との連携による情報の共有化 ③ご利用者の確保と利用継続への取組みによる稼働率向上 ④効率的なベッド調整 ⑤感染症予防対策及び事故防止対策の徹底 ⑥余暇活動の充実	①新規ご利用者の確保と定期利用への定着 ②ご利用者、ご家族との情報共有とニーズに基づいたサービスの提供 ③地域高齢者等との交流会の実施 ④余暇活動の充実	①アンケート調査を踏まえたニーズの把握とサービスの充実 ②ご家族・関係機関・各部署との綿密な情報共有 ③早期発見と医療機関への連携等の対応 ④地域からの期待に応え、稼働率につなげる ⑤根拠に基づく感染予防対策	①生活や嗜好等の把握による支援 ②在宅や居宅介護支援事業所などとの連携による支援 ③個別の余暇の充実と接遇の向上
実施状況	①利用前の体調確認、送迎時の聞き取り、検温、消毒の徹底。体調不良持の早期対応を行い、感染対策に努めながらサービス提供を行い、感染症の持ち込みを防ぐ事ができた。 ②定期的な空き状況配布とキャンセル待ちの早期連絡で居宅介護支援事業所への情報発信を行った。毎月の新規獲得数を増やし、利用者数を増やす事で稼働率上昇につなげた。 ③本人に合わせたレク活動や毎月の作品作りを利用者と共に行い、楽しめる時間を提供した。感染対策をしながらできる範囲のイベントに参加して頂いた。	①個々の能力に応じた支援とご家族も含めたニーズに対応できるようなサービス計画に努めた。 ②コロナ禍で担当者会議への積極的な参加が難しいため、書面や電話にて照会対応した。困難事例については地域ケア会議に参加した。 ③他事業所閉鎖等により前半は積極的に新規受け入れを行ったが、後半は人員不足等により受け入れ制限を行ったため稼働率は低下した。 ④人員不足等ソフト面の影響で空きベッドの活用までには至らなかった。 ⑤健康状態、コロナワクチン接種状況、県外者との接触状況等事前に確認し、濃厚接触等においてはマニュアルに基づき柔軟な対応をした。 ⑥個々に応じた脳トレや季節毎の行事を実施し充実した余暇活動に努めた。	①感染症に注意しながら、都路町内及び周辺地域の新規利用及び利用回数増等に対応した。人員不足により受け入れ制限を実施することもあった。 ②ご家族、居宅介護支援事業所との連携を図り、感染予防対策を実施しながらサービス担当者会議へ積極的に参加し、情報の共有に努めた。施設内でも情報の共有を図って受け入れを行った。 ③地域貢献活動として認知症カフェの実施を計画していたが、地域の感染症の状況により延期した。 ④コロナ禍により活動に制限はあったが楽しくご利用して頂けるように個別に対応した。	①新規利用者は計43名。新規の確保に努めたが、職員数を考慮し、受け入れを制限した。レク活動など、楽しめる内容の充実に努めた。 ②ご家族やケアマネからの利用希望に沿った日程調整や意向を反映することができた。キャンセル待ちの利用者に関しては、空床利用等で調整に努めた。 ③多職種と連携しながら情報を共有し、状態把握や体調管理に努め、ご家族、ケアマネとの連携を図った。 ④各部署への情報共有の方法について検討し、スムーズな受け入れが行えるよう工夫した。 ⑤利用前日や当日にご利用者やご家族の状態確認を行うほか、ご利用時の検温やマスクの着用など、感染予防対策の徹底に努めた。	①本人やご家族・居宅介護支援事業所から生活や嗜好などの情報収集を図り情報共有を図り、意向等に沿った支援に努めた。 ②その日の状態変化に各職種・ご家族と連携し疾病状態が、施設を利用できるかの診断を主治医と連携した。体調不良などで退所となることもあったが、担当ケアマネと連携を図りながら実施した。 ③会議などで余暇の提供内容の検討・提供を行い、接遇については、個々の反省を行い、意識付けを行なった。 ※転換に伴い受け入れ人数調整しながら行った。 ※新型コロナウイルス感染流行により利用前の状態確認・利用時の検温やマスクの着用・感染標準予防策の徹底を図った。また、人員不足により受け入れ制限を行った。

特別養護老人ホーム～諸活動の実績

(1) 各種行事、クラブ活動等の状況 ⇒ 規模縮小  
施設内で実施した季節等の行事

		主たる実施内容
春	3月～5月	桃の節句、春彼岸、花見、端午の節句、母の日、菖蒲湯
夏	6月～8月	父の日、七夕、夕涼み会、夏祭り、盆供養
秋	9月～11月	敬老会、秋彼岸、いも煮会、運動会、文化祭
冬	12月～2月	クリスマス会、忘年会、越年会、餅つき、ゆず湯、お正月、新年祈願祭、賀寿交歓会、三が日行事、鏡開き、七草小正月、団子さし、節分
通年		開所記念日、利用者懇談会、誕生会、百歳賀寿、茶話会、居酒屋、お楽しみレストラン、お茶カフェ会 お楽しみショッピング、デイサービスとの共同行事

家族や地域との交流があった行事

		主たる実施内容
ボランティア等		各ボランティア活動や団体の受入れ（演芸、創作、行事、郷土料理、実習生受入、作業奉仕等）
施設行事等		夏祭り、夕涼み会、敬老会、クリスマス会、越年会、餅つき、忘年会、買い物、ふる里訪問、ドライブ
家族会・地域連携		家族会（役員会、総会、奉仕作業）、家族懇談会、地域連携夜間総合防災訓練、地域行事への参加、介護者教室

趣味・余暇活動やクラブ活動等

		主たる実施内容
趣味・余暇活動		創作活動（俳句、手芸、編み物、絵画、ぬり絵、習字等）、読書、朗読、歌唱、映画・ビデオDVD観賞会、料理、園芸、お茶会 レクリエーション活動、余暇活動教室、体操、踊り、劇、施設外活動（小旅行、ドライブ、買い物、外食、ふる里訪問等） ユニットケア施設～ユニット交流会、ふれあい活動
クラブ活動		創作、書道、絵画、手芸、生け花、音楽、カラオケ、朗読紙芝居、発声、園芸、料理、レクリエーション

(2) 各種会議、委員会、研修の状況 ⇒ 一部中止 規模縮小 開催の場合は感染対策を講じ

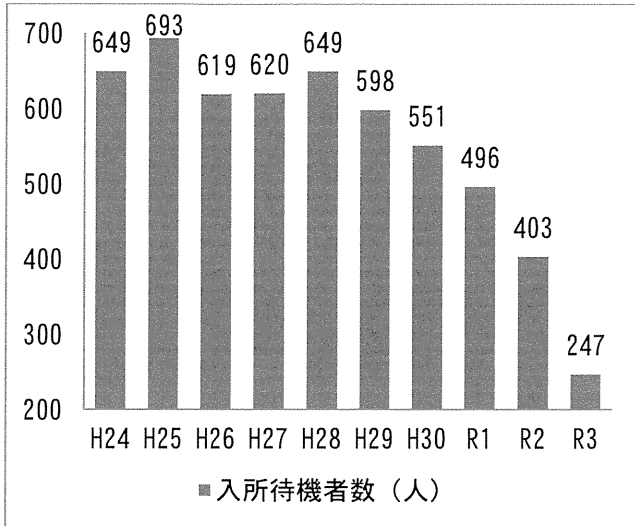
	主たる実施内容
各種会議	<p>&lt;法人内&gt; 施設長、各部門</p> <p>&lt;施設内&gt; 職員全体、運営、ケアカンファレンス、部署（職種、業務）、業務検討、広報編集、環境整備、省エネ対策、メンタルヘルス対策 *その他の会議（事業部門、正副主任、エリア、看護と介護の医療的ケア、感染対策、事故防止対策、サービス向上、リスク管理、自衛消防） *ユニットケア施設の会議～ユニット、ユニットリーダー</p> <p>&lt;施設外&gt; 福島県主催～社会福祉施設長、県老人福祉施設協議会主催～施設長</p>
委員会	<p>&lt;施設内&gt; 防火管理、苦情解決、身体拘束廃止、事故防止検討、感染症・食中毒予防、褥瘡予防、医療的ケア対策、衛生委員会・ストレスチェック実施（一部施設） *その他の委員会（広報、環境整備、看取り介護、省エネ対策、業務検討、生活向上、機能向上、メンタルヘルス、レクリエーション、実習受入、ボランティア、持ち上げない介護推進、認知症カフェ実行）</p>
研修会	<p>&lt;法人内&gt; 新採用職員、社会貢献活動、人材育成</p> <p>&lt;施設内&gt; 全体会議内（事業計画、施設長訓示・講話、各部署・委員会総括、各種研修報告、自衛消防計画、交通事故防止対策、ユニットケア、ケアプラン、倫理及び法令遵守、プライバシー保護、メンタルヘルス、ハラスメント防止、高齢者虐待防止、新人職員、苦情解決、身体拘束廃止、褥瘡予防、感染症及び食中毒防止、消防防災、地震想定防災、事故の発生予防、事故発生時等緊急時の対応、非常災害時の対応、職員マナー、営繕管理対策、省エネ対策、認知症及び認知症ケア、看取りケア、看取りの精神的ケア、機能訓練、介護、排泄ケア、移動介助技術、腰痛防止、看護と介護の医療的ケアの連携、看護、経管栄養、吸引技術、利用者接遇、24時間シート活用、体位交換、就寝環境、栄養ケアマネジメント、ソフト食） 全体会議外（新人職員研修）</p> <p>&lt;県老人福祉施設協議会主催&gt; 職種別研修会（事務、生活相談員、介護支援専門員、主任介護員、介護員、新人介護員、看護師、機能訓練指導員、給食担当者）</p> <p>&lt;県老人福祉施設協議会県中地区施設部会主催&gt; 職種別研修会（施設長、事務長、事務、生活相談員、主任介護員、介護員、新人介護員、看護師、機能訓練指導員、給食担当者）</p> <p>&lt;県社会福祉協議会主催&gt; 職種別・階層別研修会（新任職員、事務職員、施設職員、中堅職員、中堅管理職、研修担当職員、研修担当職員フォローアップ、指導的職員、看護等職員、栄養士）</p> <p>&lt;その他&gt; 雇用管理責任者、福利厚生企画、防火管理者、防災の集い、危険物取扱保安、社会福祉法人会計基準、社会福祉会計簿記入門、介護支援専門員実務、ボランティア受入、福祉サービスに関する苦情解決、介護職員ステップアップ、介護福祉士実習指導者、介護技術、排泄ケア、認知症高齢者対応、認知症介護スキルアップ、ユニットリーダー、身体拘束廃止実務、喀痰吸引等、介護保険施設看護管理者、看護管理者育成、痰の吸引等実施のための指導者養成看護師、看護職と介護福祉士の交流会、医療安全、感染症対策のあり方、リスクマネジメント、接遇マナー、特定給食施設等</p>

4-3 各事業報告（老人デイサービス事業、軽費老人ホーム、居宅介護支援事業所）

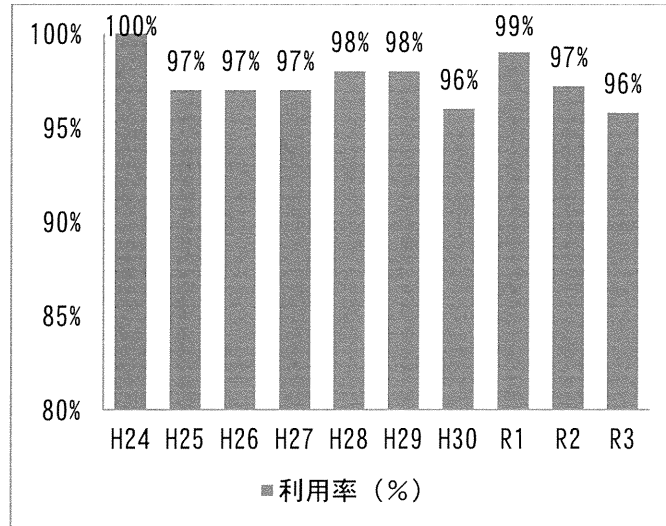
	都路まどか荘デイサービスセンター	田村市船引 デイサービスセンター	ケアハウス ふねひき福寿荘	田村市船引在宅 介護支援センター
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①帰還した地域のご利用者の積極的受入</li> <li>②職員の資質向上・連携・情報共有の徹底</li> <li>③職員連携による業務の向上（チームワーク力の維持）</li> <li>④特養との交流（集団活動への共同参加）</li> <li>⑤地域貢献事業の継続</li> <li>⑥稼働率の維持</li> <li>⑦災害や感染症等発生時の業務継続計画と訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4つの化の継続</li> <li>②利用稼働率の改善（目標：1日通常型21名 総合事業5名）</li> <li>③根拠に基づいた質の高いサービス提供</li> <li>④地域ニーズに応じた今後の事業展開</li> <li>⑤併設事業所間の連携（地域貢献・宿直・災害時緊急対応）</li> <li>⑥感染症・事故防止対策の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4つの化の継続</li> <li>②施設設備等の修繕更新計画の実施</li> <li>③施設の認知度を高めるため、継続したPR活動による待機者確保</li> <li>④住み慣れた自宅となるよう「地域の施設」として価値を高める</li> <li>⑤安定した稼働率を目指した4事業所間の連携強化</li> <li>⑥食の楽しみと介護予防の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4つの化の継続</li> <li>②自立支援を目指した個別性のあるケアプラン作成</li> <li>③目標給付管理件数 月間平均1人当たり37件（予防を含む）</li> <li>④地域包括支援センターとの連携</li> <li>⑤法定研修受入れと人材育成</li> <li>⑥地域包括ケアシステムの担い手として地域を支える仕組みへの参画</li> </ul>
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①帰還したご利用者の受入れを継続した（新規12名、追加4名）。</li> <li>②外部から講師を招き研修を行ったり、内部研修で職員の資質向上に努めた。</li> <li>③職員間のコミュニケーションを今まで以上に大切に行った。情報共有・業務連携により、チームワークで職員減分を補うことができた。</li> <li>④新型コロナウイルス予防のため特養との交流事業は縮小または代替行事で実施した。</li> <li>⑤地域貢献活動として認知症カフェの実施を計画していたが、地域の感染症の状況により延期した。</li> <li>⑥新規利用者の受入れができた。職員体制により利用制限を行ったため、目標稼働率に少し届かなかった。</li> <li>⑦各種災害、感染症発生時の対応について座学を交えながら訓練を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4つの化の視点で、根拠を示し職員間の共通認識高め、業務や職場環境の改善に努めた。</li> <li>②次年度の事業展開等も踏まえ、利用者受け入れ数を慎重に検討した。在宅サービスを必要とされる中重度者、認知症者をしっかりと受け入れた。（一日平均：通常型18.7名 総合事業5.0名）</li> <li>③三大介護を中心に、介護技術の目的・意味・根拠を理解し、安心・安全のケアの追求を図った。</li> <li>④ご利用者・ご家族、ケアマネと顔の見える関係を意識し、積極的に情報共有を図り、地域ニーズの把握に努めた。</li> <li>⑤宿直協力体制や、事業所間で情報共有を密にし、総合力を最大限発揮できるよう併設メリットの追求を図った。</li> <li>⑥感染症対策では、勉強会等を通し職員間で情報共有・標準予防策の徹底に努めた。事故防止対策では、危険箇所総点検活動を行い環境整備にも力を入れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①収支の状況を踏まえコストを意識し、利用者に耳を傾け事業を推進した。</li> <li>②退去時に居室改修（床張替え）実施。経年劣化に伴う施設設備の修繕は随時実施（今年度男女浴槽目地修繕）。</li> <li>③各事業所へパンフレットの配布や情報提供を随時行い営業活動を行った。平均在所者数25.6名、待機者7名（3月時点）</li> <li>④田村市と連携し定期的な運動サロンを実施（コロナ禍の為ビデオ対応）し、介護予防に取り組んだ。</li> <li>⑤生活維持に支障をきたす部分としては介護サービスを利用し効率化を図るためにも併設の居宅、デイサービス、特養で情報の共有及び連携に努めた。</li> <li>⑥ニーズに応じて参加型の料理クラブを実施、管理栄養士による講話を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①給付目標件数の達成を意識し、毎月の担当件数をグラフ化した。</li> <li>②個々の状況に応じた自立支援を基本とし、インフォーマルサービスを盛り込んだケアプラン作成を心がけた。</li> <li>③職員体制の変動等により新規相談を断ることが多く、目標を達成出来なかった。（1人当たり34件）</li> <li>④要介護から予防になった方については継続支援し、困難事例については地域包括支援センターの他、相談支援事業所、民生委員等と連携を図ってきた。</li> <li>⑤今年度、介護支援専門員の法定研修受入れはなかった。新任職員について意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、ともに基本から部署内で学んだ。</li> <li>⑥地域ケア会議に事例提出を行った。</li> </ul>

<参考資料1>

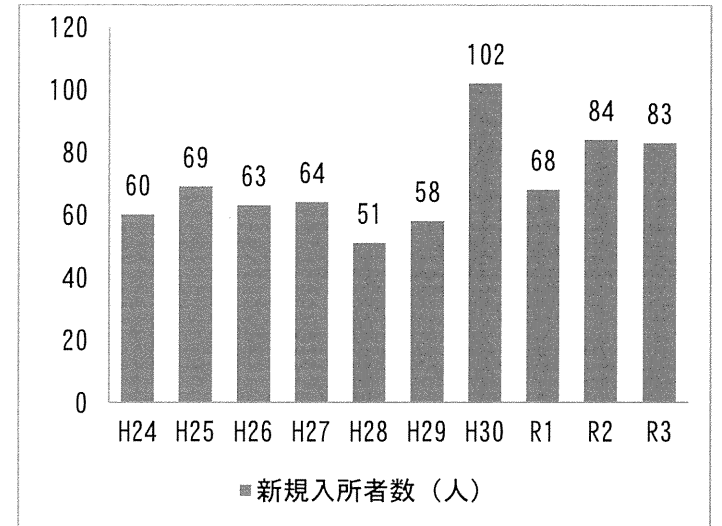
(1) 特別養護老人ホーム 入所待機者数の推移



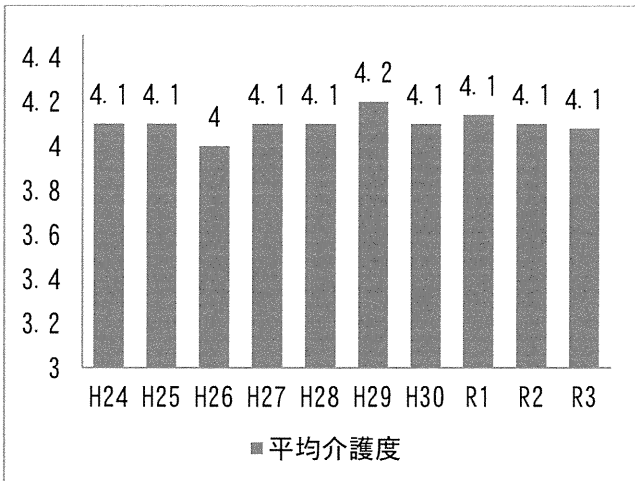
(2) 特別養護老人ホーム 利用率の推移



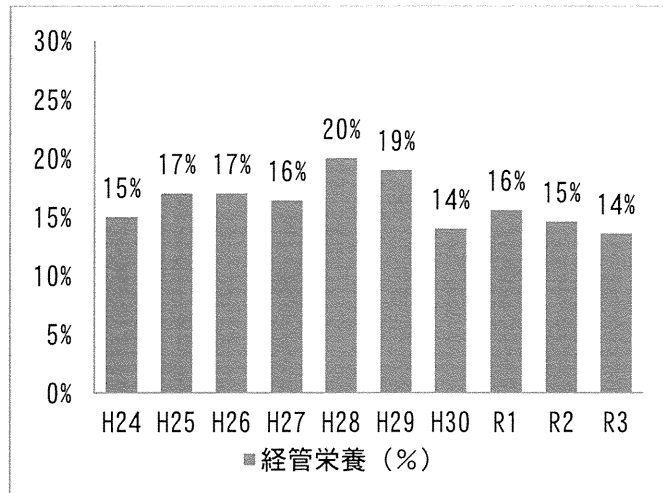
(3) 特別養護老人ホーム 新規入所者数の推移



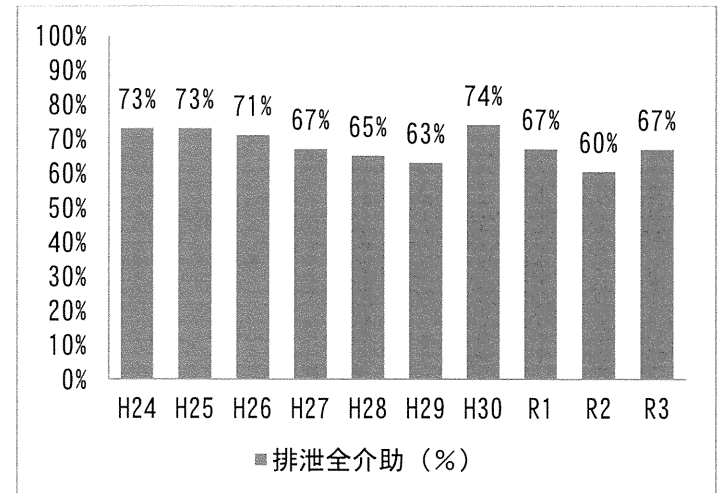
(4) 特別養護老人ホーム 平均介護度の推移



(5) 特別養護老人ホーム 経管栄養の推移



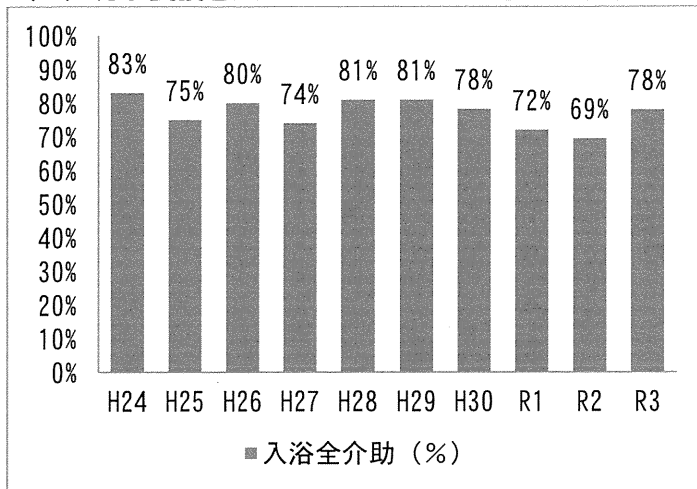
(6) 特別養護老人ホーム 排泄全介助割合の推移



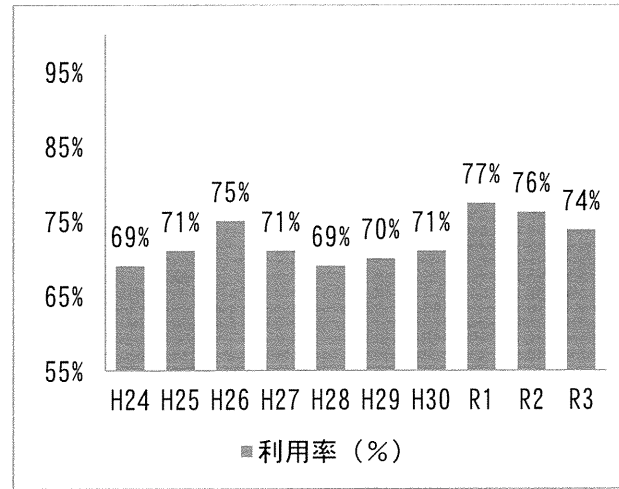


<参考資料2>

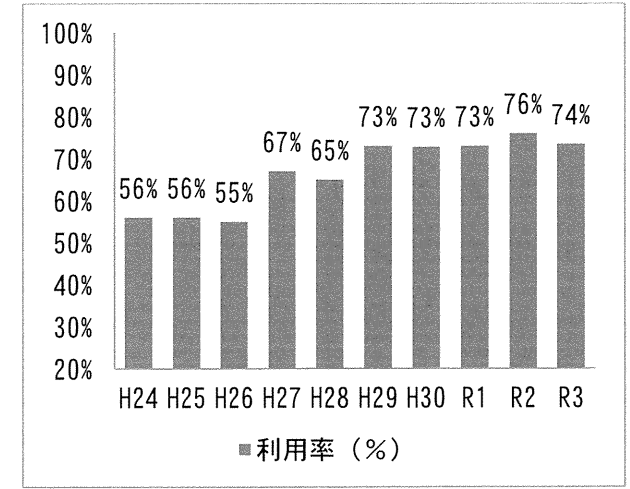
(7) 特別養護老人ホーム 入浴全介助割合の推移



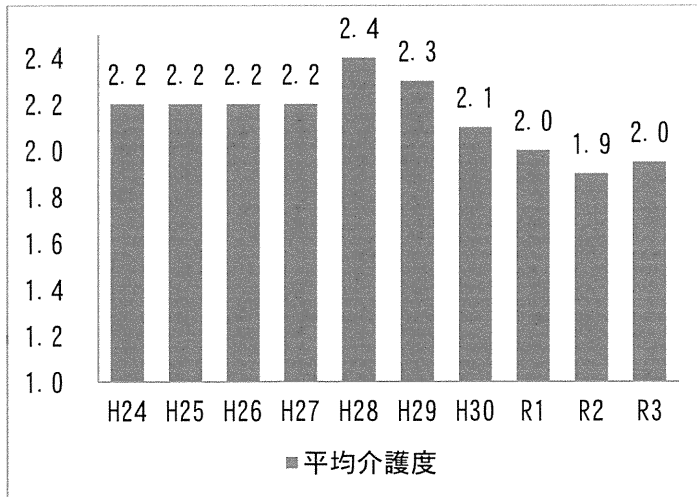
(8) 老人短期入所事業 利用率の推移



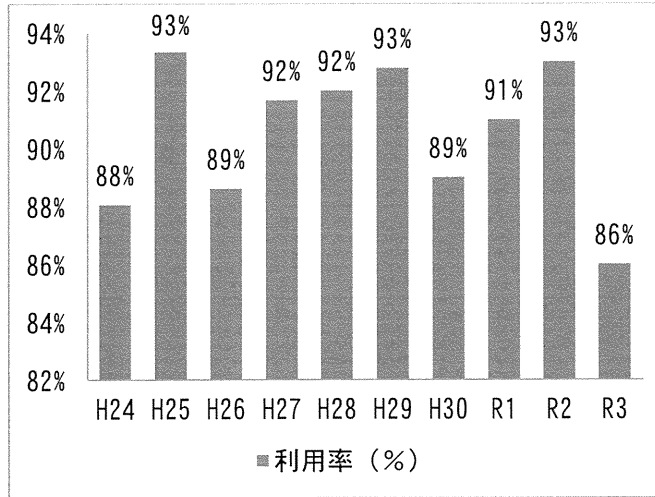
(9) 老人デイサービス事業 利用率の推移



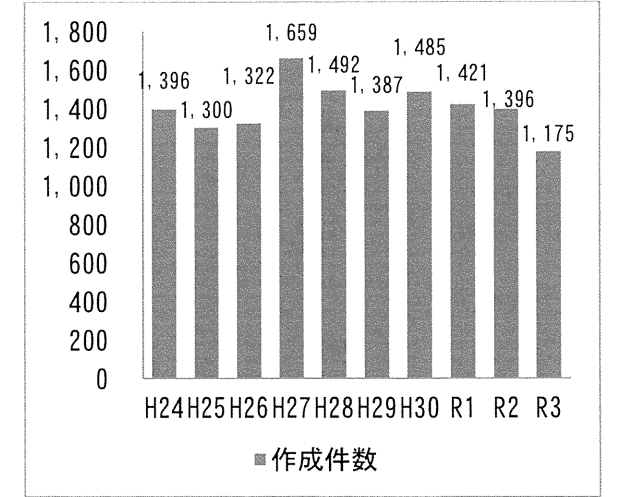
(10) 老人デイサービス事業 平均介護度の推移



(11) 軽費老人ホーム 利用率の推移



(12) 居宅介護支援事業 クラウド作成件数の推移



## 5 身体拘束の実施状況と廃止への取り組み（年間）

(1) 身体拘束実施件数  6  件

入所者の生命維持の必要性から医師の指示により一時的に身体拘束を実施した。  
一時的な抑制方法としてミトンを使用した。

（身体拘束が認められる条件は「切迫性」「非代替性」「一時性」。本人及び身元引受人に説明し確認後に実施。）

(2) 身体拘束廃止への取り組み内容

- 身体拘束廃止委員会活動により実施した。
- 研修・学習会を通じ身体拘束廃止についての理解を深めた。
- ケアカンファレンス等の会議を通じて個別の対応策の検討及び見直しを図った。

## 6 事故報告と防止対策（年間）

(1) 重大な事故の報告件数  59  件

- \* 重大な事故
- |                                       |     |               |                                  |
|---------------------------------------|-----|---------------|----------------------------------|
| (1) 転倒・転落またはその他の事故により医療機関を受診し治療を行ったもの | ・・・ | <u> 28 </u> 件 | (ケアハウス居室内での事故なし)                 |
| (2) 誤嚥等により窒息し、意識喪失があったもの（受診の有無は問わない）  | ・・・ | <u> 1 </u> 件  |                                  |
| (3) 離脱し（施設外に出てしまい）捜索を行ったもの            | ・・・ | <u> 0 </u> 件  |                                  |
| (4) 誤薬により体調不良になったもの及び医療機関を受診し治療を行ったもの | ・・・ | <u> 0 </u> 件  |                                  |
| (5) 送迎や受診時に交通事故を起こした                  | もの  | ・・・           | <u> 0 </u> 件                     |
| (6) その他上記に準ずる重大な事故                    | ・・・ | <u> 30 </u> 件 | (誤ってご利用者に服薬させてしまったが受診には至らなかったもの) |

(2) 主な事故防止対策

- 事故防止対策委員会活動により実施した。（事故直後、定期及び随時の開催）
- 定期的にモニタリングを実施し再発防止に努めた。
- 事故事例の集計分析により事故の多面的な傾向を踏まえた要因分析を行い再発防止に努めた。
- 事故及びインシデント報告書を全職員に周知し、情報共有を図った。
- 施設内外の研修へ参加し報告会を実施した。勉強会や研修会を通じて事故防止のための能力向上に努めた。
- 事故防止のため職場での危険予測トレーニングを実践した。
- 薬、服薬管理、誤薬リスク等について薬剤師を講師に招き勉強会を開催し、知識の向上に努めた。
- 県中保健福祉事務所より誤薬予防についてのアドバイスを受け、マニュアルを見直し周知・実践した。
- 酸素の事故が続いたため、施設内で重大事故として取り扱い、再発防止に努めた。

7 苦情受付事例と解決への取り組み（年間）

（1）苦情内容別件数 4 件

（2）苦情内容及び解決への取り組み内容

種別	苦情内容	苦情解決への取り組み内容
入所	<p>入居者の実調で施設に訪問した際、感染対策により面会を制限している中、事前の連絡もなく家族が実態調査に同席され、長時間施設の部屋を占有した。</p> <p>家族が同席することを事前に確認して欲しかった。</p> <p>感染対策中で実調内容に関係のないことで施設を使用しないで欲しい。</p>	<p>こちらの至らなかった対応について謝罪を行う。（法人本部）</p> <p>当該職員に内容を確認し指導を行うことをお伝え指導する。（法人本部）</p> <p>申出人へ謝罪し改善することです了承得る。</p> <p>実調日程調整時に、相手先の施設の対応状況を確認し、家族が同席等する場合はきちんと確認了承を得て進める。</p> <p>手順書の作成</p>
入所	<p>病状説明の日程調整を行いその後の連絡がなかった。</p> <p>予定があるため連絡の約束は、きちんと守って欲しい。</p> <p>連絡を忘れたら次の日でも良いから早めに連絡が欲しい。</p>	<p>内容を確認し生活相談員が謝罪し改善する事を伝える。</p> <p>看護師は、番付きで連絡とれないときは、看護師同士連携を図り責任を持って最後まで連絡を行う。</p> <p>連絡有無確認を翌日、引き継いだ看護師や入居者担当責任者が確認する。</p> <p>看護師任せにしないで入居者担当の生活相談員が責任をもって連絡する。</p>
短期	<p>ショートステイの実態調査のために路上に車を停めた前の家の方から施設に電話連絡ある。車を移動して欲しいと苦情があった。</p>	<p>連絡入り直ぐに車に向い地主がいたため謝罪し車を移動する。</p> <p>担当ケアマネに事前に駐車場の有無確認を行う。</p>
短期	<p>送迎時間は、予定通りの時間に来て欲しい（ご利用者様は、不穩がある方なので遅れると不穩の引き金になりやすい）。</p> <p>送迎時間が遅くなる時は、連絡が欲しい。</p>	<p>内容を確認し生活相談員が謝罪し改善する事を伝える。</p> <p>当日の担当者の送迎時間の確認を継続して行う。</p> <p>送迎時間の遅れや変更時の家族への連絡を密にする。</p>